

# 生徒指導におけるカウンセリングマインドとは

## 「教員の指導の幅を広げるために」

臨床心理士であり、兵庫県スクールカウンセラーとして勤務されている中村経子先生を講師に迎え、園児・児童・生徒、保護者や同僚と豊かな人間関係を作るための心の持ち方や話の受け止め方について、ワーク（演習）を通してご講演をいただきました。

「つづめる子」「いじめられる子」  
それぞれの心理は

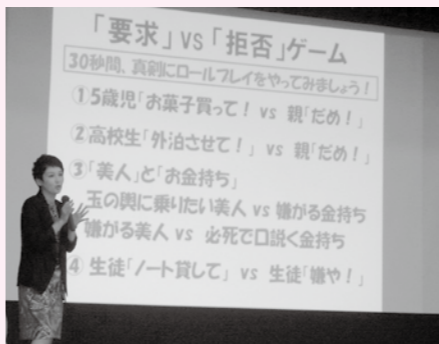
「要求」と「拒否」のワークを通して、「いじめられる子」「いじめられる子」の心理について考えました。同じことを繰り返して要求し続ける側は、相手も困っている様子を見るのが段々楽しくなってきました。一方要求され続ける側は、最初は「いやだ」と思い、それを口に出すのですが、だんだん根負けして「まあ、いいか。しょうがない」という気持ちに変化していきます。これは、いじめの構図にそのまま当てはまります。実現不可能なことでも要求し続けられると拒否を続けるのは難しく、しかも拒否をするのには大きなエネルギーが必要なることを学びました。

「二択の嵐にはまらなう」

私たちは、ついつい子どもたちの気持ちや行動を「+」か「-」か、どちらかに当てはめようと

「ギャップ（差、違い）があるのは当たり前」

人は、自分と周りの人を比べた時に同じところを見つけると安心し、違うところを見つけると不安になったり、少数派に対して排他的、攻撃的になったりします。他人とギャップがあることを当たり前のこととしてとらえさせること、そして、そのギャップを尊重した学級づくりが、今教師に求められているのではないのでしょうか。



平成27年度播磨町全教職員研修会（教育講演会）が8月21日に開催されました。その一端をご紹介します。



「会話のチェーンを作ろう」

会話をする時に、結論や評価を急ぐと会話が途切れてしまったり、相手の気持ちや十分に理解できなかつたりします。会話をつなげていくということは、相手の気持ち・感情・思考・価値観に共感することと同じであり、相手を大切にすることにつながります。

「キーワードは『共感』」

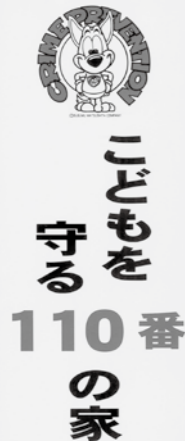
今日の講演会は「共感」が一つのキーワードでした。私たち大人でも、誰かに共感してもらった時に、人とのつながりを改めて実感することができます。教師である私たちは、子どもたちの何気ない言葉に込められた思いに気づき、そして情緒的な理解を大切に、これからの日々の教育活動に努めていきたいと考えています。

▼問合せ 学校教育グループ ☎079 (435) 0545

### 播磨町全教職員研修会

## 「子ども110番の家」をご存知ですか？

「子ども110番の家」は、登下校時や放課後に、子どもたちが助けを求められることができる民間協力の緊急避難場所として始まった取り組みです。現在、各校区ごとに多くの方々の協力を得て播磨町でも取り組んでいますが、新規に「子ども110番の家」にご協力いただける方、内容についてお聞きになりたい方は、学校教育グループまでご連絡ください。



播磨町自治会連合会  
播磨町青少年育成推進委員会  
加古川地区防犯協会播磨支部  
加古川警察署

▶問合せ 学校教育グループ ☎079 (435) 0545

## ゆとりある学校生活のため ご協力をお願いします

児童・生徒のゆとりある生活の確保、心身のリフレッシュやスポーツ障害などの防止、教職員が児童生徒と向き合う時間の確保のため、県教育委員会では新対策プランを策定し、「ノー部活デー」や「教職員定時退勤日」を実施しています。保護者や地域の皆さんのご理解、ご協力をお願いします。

●ノー部活デー

平日 週1日、休日 月2回以上

●教職員定時退勤日

週1回以上

※実施日は各学校で設定します。

▶問合せ 学校教育グループ

☎079 (435) 0545

### 家庭教育プログラム

#### 子どもたちの未来のために

「家庭学習は、とても重要」

「学ぶ力」「学ぶ姿勢」を身につけるために  
【小学1・2年生】

●1・2年生の学習は...

○生活と結びついた内容が多く、具  
体物を使う、実際に体験するなどの学習が中心です。



●保護者の皆さまへ  
○実際の物を数えたり、時刻を尋ねたり、生活を学習につなげましょう。

○学校からの連絡・お便り・筆箱の中を、お子さんと一緒に確かめましょう。



○学習を始める前に、テレビなどは消しましょう。

